

患者の服薬状況を確認し降圧薬の変更を提案した例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、患者の服薬状況を確認し、降圧薬の変更を提案することで、薬物治療効果の向上に貢献できたプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

▶化学療法施行目的で入院された患者

【施行中の化学療法】

TC+Bev 療法（パクリタキセル、カルボプラチン、ペバシズマブ）

【持参薬（一部抜粋）】

アムロジピン OD 錠 5mg 1 回 1 錠、1 日 1 回（朝食後）

※入院時の血圧：143 / 82 mmHg



H さん

H さん、こんにちは。血圧の薬（アムロジピン）を服用されていますが、
普段の血圧はいかがですか。



H さん

さっき測ってもらったら 143 と 82 でした。普段もこのくらいだと思います。
実は、血圧の薬を飲むと、ふらつきを感じるので、飲めていないです。

そうでしたか。H さんはペバシズマブという薬で治療をされている
ため、今後も高血圧が続くおそれがあります。
他の種類の薬に変更できるか、先生に確認してみますね。



薬剤師

H さんに降圧薬でアムロジピンが処方されておりますが、ふらつきが
あり服用されていないようです。
ペバシズマブによる治療中で、本日の血圧は 143/82mmHg でした。
降圧薬を継続するため、ARB※に変更するのはいかがでしょうか¹⁾。



医師

ありがとうございます。それでは、降圧薬はテルミサルタンに変更
して血圧の様子をみましょう。



その後、テルミサルタン錠 20mg 1 回 1 錠、1 日 1 回（朝食後）が内服開始となった。
次回入院時には、ふらつき等の副作用なく服用継続できていることが確認でき、
血圧も 130 / 78mmHg と低下した。

患者の服薬状況を確認し、降圧薬の変更を提案することで、薬物治療効果の向上に貢献できた。

参考文献：1) アバスチン適正使用ガイド

※ARB：アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬（テルミサルタンは ARB に分類される）